

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		きらり中庄				公表日	令和7年3月15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	1	6	整理整頓を行い、なるべく療育スペースが、広くとれるようにしている。バギーや車椅子が大きいのでどうしても物を廊下に出さざるをえないため廊下に物が多くなってしまう。バギーを使用しているお子さんが多く、狭く感じる。 狭い、工夫に限度あり 介助者の負担もあり、ベッドが欲しい	限られたスペースの中で、活動場所や動線の確保などお子さんの活動や移動しやすい環境を職員が工夫・改善しながら取り組んでいます。 ロールスクリーン等も設置しつつの部屋を分けて視覚的や環境の変化もつけるようにしてみています。 同一建物、敷地内の資源（スヌーズレン、ログハウス等）調整し活用しお子さんが様々な体験・経験ができるように工夫していきます。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0	誰でも支援できるようにしている		
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6	1	一部屋が主な生活スペースのため、必要な機器を配置しても児の移動や活動に支障が生じないためにレイアウトの変更などを都度見直している。	設置場所なども踏まえ、お子さんの活動等のスペースに支障のないレイアウトを検討していきます。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	体が大きい中高生が半数をしめるなか、床への移乗が大変。昇降ベッドが必要と思うことがある。	職員の働く環境の改善、腰痛防止の観点からもベッドの導入も検討します。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	3	調整している	同一建物・敷地の部屋の活用や、限られたスペースを仕切れることで有効なスペースを作りだすなど、個別・集団で活動する内容や目的に合わせて工夫を行っていきます。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	現状、日々の支援をすることに頑張っているところで、支援の改善などはこれからがんばれたらいい。	サービス提供後の時間などを有効活用し、情報共有、改善点を話し合う時間を計画的に設けていきます。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1		目標管理面談や日々のコミュニケーションの中で職員の気づきや思いを汲み取り、全体で話し合う、改善すべき点に取り組んでいきます。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	0			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	職員全員が聞ける時間がない。職員が何を学びたいのか、それに合わせて研修の機会があれば。		
支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	課題解決に向けて立案しているので○。ただし方法がパターン化しているため、お子さんに合っていない印象もあり。個別性がみられない。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	どのように支援するか、具体的でないので、支援によりバラバラ、やりたいことをしている。それを専門性が高いと言われればそう言えるのかどうか。		
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1	標準化されたツールがわからない	よりお子さんの状態、様子などを捉えることが出来るツールを模索しており、外部研修等での情報を共有している。既存に捉われず支援の向上を目指して支援に必要なものも整えています。	

適切な支援の提供	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1	会議などチームで話し合う機会があればいいのに	重症心身障害のあるお子さんの支援のため、保育だけでなく、機能訓練指導員、看護職員のそれぞれの視点が必要になります。お子さんの最善の利益を追求するために、意見を出しすり合わせを行って計画作成、支援を行っていきます。
	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0		
	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	個別活動までは余裕がない。利用者による。	お子さんの成長や障害による特性なども考慮し、集団活動と個別活動のバランスをとって支援を行っていきます。
	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	打ち合わせはあるが、支援内容まで話す余裕がない。	
	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	話し合いはしているが、問題解決までは余裕がない。	
	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0		
	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4	3	プラン見直しのタイミングしかないため、もう少し定期的な見直しができるといい	支援計画のモニタリング時期だけでなく、お子さんの成長に合わせて方法の変更や活動内容が変わるタイミングでも状況を確認していきます。
	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5	2		放課後等デイサービスにおける「4つの基本活動」の説明、周知を図り支援計画作成やお子さんへの支援を行っていきます。
	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0		
関係機関や保護者との連携	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0		
	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		医療的ケア、重症心身障害のある児にとっては医療・服薬等は切り離せないため、最新の情報を共有できるように努めています。
	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	2		通われている学校の予定・行事等でサービス利用も変化するため、情報共有を引き続きしっかりと行っています。
	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		サービス種類が変化する際の移行支援会議だけでなく、園訪問、アフターフォローなども通じて関係者間で情報共有や切れ目ない支援をこれからも行っています。
	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		「移行支援」にもあるように、ライフステージの変化の際には十分な情報共有と引継ぎ、移行後のフォローも行っています。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5	そのような機会が、欲しい	センターの中核機能など、専門的な視点や助言を積極的に受けながら、支援者間だけでなく様々な視点からお子さんや家庭の支援を考えて実施していく。
	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	2	5		地域にある園などに出向き、支援者が行き来するなどの機会から、お子さん同士の交流に繋がる取り組みを行っていく。
	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	4		自立支援協議会の部会等へ積極的に参加し、市内の取り組み、他事業所との繋がりや情報交換を行っていきます。

	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0		
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6	1	兄弟児が交流する機会は少ない。	年間計画で茶話会、ふれあい活動などを計画していきます。保護者の方の学びたい、知りたいも伺いながら勉強会や情報交換の時間を設定していきます。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2		地域の方にも知っていただく機会など、職員一人ひとりが意識して取り組んでいきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	2	形式的に実施しているが、職員の学ぶ場がない	マニュアルに目を通すだけでなく、実際に訓練を通して緊急時に備えると同時にマニュアルを見直し使えるものにしていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	1		事業継続計画も作成するだけでなく、実際に使えるものにすることや、最新の災害リスクの情報に更新し、対応できるようにしていきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	0		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		毎月の安全点検を継続して行うだけでなく、日々のなかでの気づき力を高め、発生を未然に防ぐリスクマネジメントを行っていきます。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		災害を想定した避難訓練などは事前事後の報告などを行っている。家庭にて災害に遭遇した際の必要な備えなどの取り組みを継続していきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0		発生した内容の再発防止や経過の確認だけでなく、気づきを増やし未然に防ぐ取り組みも同時に行っていきます。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0		

	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0		
--	----	--	---	---	--	--